

**開催概要：** 2019ダイバーシティ経営普及開発セミナー  
～持続可能な経済成長の鍵を握るダイバーシティ経営～

**開催日時：** 令和元年7月29日（月）13:00～14:40

**開催場所：** リファレンス大博多ビル11階 セミナールーム1109

**主催：** 九州経済産業局

## プログラム

- 13:00～13:15** 主催者挨拶  
九州経済産業局 地域経済部長 松下 達也氏  
「新・ダイバーシティ経営企業100選」の募集紹介  
ダイバーシティ経営診断ツールの紹介  
九州経済産業局 地域経済課 岩崎 薫氏
- 13:15～14:00** 基調講演  
「SDGsとダイバーシティ経営 ～グローバルにおける最新潮流～」  
Gender Action Platform理事 大崎 麻子氏
- 14:00～14:40** パネルディスカッション  
「持続可能な経済成長の鍵を握るダイバーシティ経営」
- <パネリスト>  
Gender Action Platform理事 大崎 麻子氏  
スリー・アールシステム株式会社 代表取締役社長 今村 陽一氏  
株式会社ウィズグループ 代表取締役 奥田 浩美氏
- <ファシリテーター> 株式会社Will Lab（ウィルラボ）代表取締役 小安 美和氏



## 当日の様子

人口減少、少子高齢化が進む日本社会において、持続可能な経済成長の鍵を握るダイバーシティ経営について理解を含めようと、九州全域から55名の参加者が集まりました。基調講演では「九州でのダイバーシティ熱の高まりを感じる」という話を皮切りに、グローバルにおける最新の動きをご紹介。パネルディスカッションでは、第一線でご活躍される方々それぞれの視点から、リアルな意見が語られました。



## 主催者挨拶ほか

主催者挨拶では、九州経済産業局松下氏よりダイバーシティが広がった結果として、高い企業価値を生み出している事例が挙げられ、今後さらなるダイバーシティの広がりを希望する話でセミナーがスタート。同局の岩崎氏からは「新・ダイバーシティ経営企業100選」の募集とダイバーシティ経営診断ツールを紹介。その場で診断シートに記入する簡単な実践も行われました。



九州経済産業局 松下氏 九州経済産業局 岩崎氏

## 基調講演

### 「SDGsとダイバーシティ経営～グローバルにおける最新潮流～」



Gender Action Platform理事 大崎氏

大崎氏は、「国際社会共通目標の実現」をライフワークとして掲げ、ジェンダー平等、女性とガールズのエンパワーメントの推進・支援活動を行っています。本セミナーでは「ダイバーシティとジェンダーの関係性」「世界はなぜジェンダー平等を目指すか」「世界の企業はどのようにジェンダー平等を求めているか」に関して話がありました。大学院生時代に出産され「子どもと仕事はいつも一緒だった」と話す大崎氏。国連でのハードワークを支えたのは、先輩方が作ったサポート制度や励まされたそうです。国連PKO局の研修教材より抜粋した氷山のイメージ図を用いて「そもそもダイバーシティとは何か」について深くご説明。そこにはわかりやすい違い、わかりにくい違いがあり、「見えづらい部分こそが多様性である」といったダイバーシティの本質を様々な観点から話してくださいました。また、ダイバーシティの基本はジェンダーであり、性別と性別的役割分担は、普遍的であることを強調。いくつかの事例を挙げながら、「意識的・無意識的なバイアスを完全に排除するのは不可能。まずはそれに対する気づきが大切である」と、パワフルかつ穏やかに話してくださいました。

最後には世界共通のジェンダー課題に言及。「女性に対する暴力の根絶」「無償ケア労働（家事、育児、介護、看護）の負担軽減と責任の再分配」「意志決定・方針決定への女性の参画の推進」の課題解決に向け、環境整備や意識改革が必要との考察が語られました。

## 2019ダイバーシティ経営普及開発セミナー

～持続可能な経済成長の鍵を握るダイバーシティ経営～



## パネルディスカッション

## 「持続可能な経済成長の鍵を握るダイバーシティ経営」

人口減少・少子高齢化が進む日本の社会において、いかに地域、企業におけるダイバーシティ&インクルージョンを加速させられるでしょうか？パネルディスカッションでは、株式会社Will Lab 代表取締役の小安氏をファシリテーターに、基調講演を行ったGender Action Platform理事 大崎氏、スリー・アールシステム株式会社 代表取締役社長 今村氏、株式会社ウィズグループ 代表取締役 奥田氏で多くの意見が交わされました。



Gender Action Platform理事  
大崎氏



新・ダイバーシティ経営企業100選 受賞  
スリー・アールシステム株式会社  
代表取締役社長 今村氏



株式会社ウィズグループ  
代表取締役 奥田氏



【ファシリテーター】  
株式会社Will Lab (ウィルラボ)  
代表取締役 小安氏

導入の自己紹介では、ご自身の経歴や活動内容と合わせて、ダイバーシティに関する考え方が様々な切り口から語られました。それぞれの領域において第一線でご活躍されている方々ならではの内容は大変興味深く、約1時間のパネルディスカッションの約半分の時間が費やされるほど大いに盛り上がりました。その後「ダイバーシティは何のためか」「壁をいかに乗り越えるか」といった質問に対して議論が展開されました。

特に活発な議論がされたのが「壁の乗り越え方」についてです。新・ダイバーシティ経営企業100選（平成30年度）において九州から唯一受賞された組織を率いる今村氏は「壁はまだ乗り越えていないし、乗り越えようとも思っていない。新しいことをやる時は、反対勢力があるのが大前提。不安はあるだろうがあまり心配しないこと」といった現場最前線ならではの具体的な話がありました。また、これまで30以上もの事業を展開し、躍進を続ける奥田氏からは「壁や対立があることがダイバーシティ。起きた問題、ひとつひとつの現象に対して議論する場を持つことが大切。また、当グループの採用段階では“自社に合わせる必要はなく、応募者自身がどのような人生を送りたいか”を最重要視している」と語られました。本テーマはファシリテーターを務める小安氏の「2人の共通点は個を大事にしていること」というコメントで締めくくられ、最後に、登壇者から参加者に対して「企業と個人が明日からできること」というメッセージが発信されました。

<大崎氏> 世界中には多くの「壁」があり、自分だけで考えると壁だらけになってしまう。自分にとっての壁は、誰かが経験してきた壁、つまり経験の共有がある。国内だけの事例を学ぶのではなく、世界の事例に目を向けて欲しい。そこにはファーストペンギン（チャレンジ精神を持った最初の1人）である意思決定権を持つ男性が必ず存在するので、連帯して壁の乗り越え方を学んで欲しい。そうすると、必ず変化できるはず。

<今村氏> 「大きな声で、さわやかに挨拶をしましょう」といった基本的なことを大切にしている。これだけで2週間もあれば会社の雰囲気が変わる。定性的なことは会社の現場でしかわからないので「この人はこういうことを考えているのか」ということを知るコミュニケーションのきっかけづくりから始めてみては。

<奥田氏> それぞれの会社には「会社のビジョン」があるが、その多くは女性が活躍していない時代にできたもの。過去30年を一旦破壊して、自社のビジョンが最も生きるには、どうしたら良いかをまず考える。過去の社会通念が、いかにそこに影響を与えてきたかを考えるのがポイント。

## 来場者の声（参加企業様アンケートより）

- ☑実際に取り組まれた事例を聞くことができ、多くの学びを得ることができた
- ☑登壇者の方々のひとりひとりの話をもっと聞きたかった。これだけ一流のメンバーであれば、さらに広い会場講演時間を長くとっても良いかと思う。
- ☑密度の濃いセミナー内容だった。登壇者が参加者の属性を事前に把握しているとなお良いかと思う。
- ☑女性としても意識が変わった。